

現況分析における顕著な変化に
ついての説明書

研 究

平成22年6月

浜松医科大学

目 次

1. 医学部・医学系研究科	1
---------------	---

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育／研究)

法人名 浜松医科大学

学部・研究科等名 医学部・医学系研究科

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 研究成果の状況

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名 研究成果の状況

本学医学部・医学系研究科における研究を特徴づけるものとして、①光を応用した基礎医学や臨床医学研究、②疾患と遺伝子やタンパクの対応についての研究があり、生化学、生理学、病理学の各講座、光量子医学研究センターにおいて活発に推進しているところである。

また、もう一つの特徴として、③こころの医学的研究があり、本学では、こころの疾患を分子レベルの異常として理解することを目指し、精神神経医学、心理学、解剖学、生理学及び看護学科等の各講座が参加し活発に研究が進められているところであり、その成果の一つは、共同研究及び受託研究実績（図1：共同研究件数及び受入れ額、図2：受託研究件数及び受入れ額）が示しているとおりである。

一方、平成20年度及び21年度において、学術的意義又は社会、経済、文化的意義が特に高い研究業績を平成16～19年度の評価の際の基準（①インパクトファクターが15以上の学術雑誌に掲載された論文、②サイテーションインデックスが30以上の論文、③学会賞受賞の論文・著作、④政府・地方自治体からの賞を受賞した論文・著作・作品、⑤新聞（全国版）に掲載の論文・著作・作品、⑥世界的な専門誌で評価された論文・著作・作品、⑦政府大型予算の事後評価で最上級の評価を受けたもの、⑧前記の基準に相当する特許や開発装置（完成しているもの）等）により、本学医学部・医学系研究科を代表する卓越した水準にある業績「SS」として、別添「学部・研究科等の研究業績リスト」のとおり、「学術面」として10件、「社会、経済、文化面」として3件、合わせて13件を選定した。この件数は、平成16～19年度の評価時に選定した16件と比べて顕著な増加となっている。

これらの研究業績は、本学医学部・医学研究科の研究目的に照らし、また、学界及び産業界における関係者の期待に応える特記すべき研究成果であり、顕著な変化があったと判断できる。

図1：共同研究件数及び受け入れ額

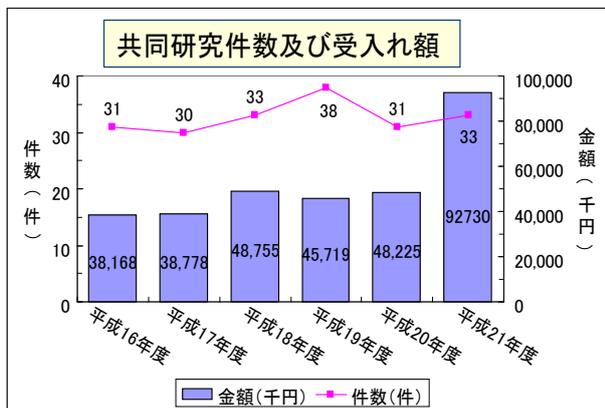


図2：受託研究件数及び受け入れ額

